



神奈川県立 生命の星・地球博物館
Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

友の会通信

116

2022.06

Vol.26 No.1 通巻116号 2022年6月15日発行(年4回発行)



友の会総会等の様子ほか

2022年度友の会事業について

新型コロナウイルス禍での3回目の新年度となります。過去2年間は多くの事業が中止となり大変寂しい状況でした。今年度は感染状況を注視しながら、できるだけ多くの事業を行えるよう、withコロナにおける友の会活動を検討します。ご協力、よろしくお願いします。

目次

ご挨拶	2
事務局より	3
情報クリップ	4
活動報告	4
学芸員の雑記帳	7
植物コラム	8
学芸員紹介	8
行事案内	9

今年度もコロナに負けずに

会長 鈴木智明

新型コロナウィルス禍の中、新年度が始まりました。皆さまはいかがお過ごしでしょうか。



昨年度は緊急事態宣言やまん延防止等充填措置などにより社会活動の制限がかけられ、友の会行事も予定の半数程度の開催となってしまいました。非常に寂しい一年でしたが、今年度は新規感染者が昨年夏の第5波を超える状況が3ヶ月程度続いているとはいえ、重症者が少なく病床もそれほど逼迫していないことから現時点では活動制限がかからない状況となっています。今年度予定している30件の講座についても実施する方向で準備等を進めています。社会的にみても6月より外国人観光客の入国制限の見直しが始まり、そろそろ新たなフェーズに入りつつあるのかなと感じています。友の会においても、今年度もしっかりした感染防止対策や、ワクチン接種などによるコロナ対応の状況等を踏まえつつ、以前のような活動を限り、活動を進めたいと考えています。

そういった中で、コロナ禍を契機に急速に普及したネットを介した会議やテレワークのなどデジタル化の流れは「ウィズコロナ」の世界においても変わることはなく、友の会の新しい活動のあり方として活用できるのではないかと考えています。博物館や友の会の基本理念として自然に直接触れることがあります、その周りの活動を支える手段の一つとして、例えば会員とのやり取りの活性化などにネット等を活用して行きたいと思えます。先日開催された総会においても、会員とのコミュニケーションの場の提供をとのご意見もありましたので、情報提供・交換の機会を作って行きたいと思えます。

非日常が日常化する時代となりましたが、皆さまも健康に気をつけてお過ごしください。

今年度もよろしくお願いします。

コロナ禍のなかで

館長 平田大二

今年度も館長を勤めさせていただきますので、お付き合いのほどよろしくお願い致します。

この2年間、コロナ禍により皆さんも思うように自然を楽しむことができず欲求不満がたまっていたことでしょう。ようやく注意しながらも活動ができるようになり、楽しまれていると思います。しかし、コロナ禍が終息したわけではありませんので、油断は禁物です。

さて、友の会には、その設立から現在まで長い間にわたり博物館活動を支える大切なパートナーとしてご協力をいただけてきました。あらためてお礼申し上げます。今後も博物館を支える貴重な存在としてご協力をお願いします。当館も開館以来27年の歳月を経ました。この間、博物館の基本的な活動である、資料を集め(集める)、調査研究を行い(調べる)、その成果を発信する(伝える)ことを地道に積み重ねてきました。この活動の継続には、職員の努力もありますが、施設・設備の維持管理も肝要です。収蔵スペースの拡充と展示更新も必須です。昨年度の後半は、空調設備・エレベータ等の改修工事のため休館いたしました。冬場の寒い中、暖房もままならず友の会の活動にもご不便をおかけしました。ライブラリーや講義室などの照明のLED化を進め、以前に比べてだいぶ明るくなりました。館内の施設環境整備をこれからも順次進めていきます。

ところで、本年4月に博物館法が一部改正され、その目的に社会教育法に加えて文化芸術基本法 of 精神に基づくことが定められ、地域の多様な主体との連携・協力による文化観光その他の活動との連携を図り地域の活力の向上に取り組むことが努力義務とされました。文化観光に寄与することも大切ですが、流行に惑わされず生涯学習機関としての博物館本来の役割を忘れずに、しっかりと基本的な活動に取り組むことが大事であると思っています。

最後に、今気になるのはウクライナ情勢です。歴史は繰り返すと言われますが、戦争が人類にとって負の遺産しか残さないことは明白です。一刻も早くロシアが軍事侵攻を中止することを望みます。



事務局より

2022年度第26回友の会総会の開催

2022年4月24日13時より、博物館講義室にて第26回友の会総会が開催されました。

まず2021年度の事業報告では、新型コロナウイルスによる影響のため、通年行われている博物館との共催事業、よろずスタジオ、ミュージズフェスタ、サロン・ド・小田原の中止、講座においては、計画されていた28講座のうち、17講座のみが実施されたなどが報告されました。とはいえ、一昨年（2020年度）に比べれば多くの講座が実施され、コロナの第5波、第6波の中、講座担当者がしっかり感染対策を行ったことによるものと思われます。

決算報告では、会員が当初計画の400人は下回ったものの、多くの方にご参加いただいている状況等が報告されました。また、会計監査の報告では、会計監査業務をスムーズにすべく意見書を役員会に提出した旨の報告がありました。このことについては今年度しっかり検討して行きたいと思っています。新年度の役員については、植物グループが佐々木あや子さんから浅川久子さんに交代、また会計の村尾さんが退任となりました。

博物館友の会担当職員は、渡辺学芸員の代わりに荻部学芸員が加わりました。

今年度の事業計画については、全体を通して通常ベースでの計画を立てました。新型コロナウイルス感染症の状況によっては中止等があるかもしれませんが、極力実施して行ければと考えています。なお、サロン・ド・小田原については、あり方等を一旦整理したく、上半期は休止とし、その間に運営等について検討・調整を行うこととしました。

その他、事務局、広報部及び31件の講座計画については案のとおり承認されました。

予算案については、昨年度は行わなかった講座案内のチラシ作成などを復活させるなどの内容となっており、こちらも案のとおり承認されました。

質疑等では、友の会の課題や今後の方針等について、会員の意見を聞くためのアンケートの実施についての提案がありました。実施方法について以前行ったようなはがき等でうかうか、ネットを利用した方法にするかは検討しますが、どちらにしてもアンケート自体は実施したいと思います。

今年度は、新型コロナとうまく付き合って事業を

実施して行きたいと思っています。昨年度はあまり積極的な広報は行いませんでしたが、今年度は入会チラシも作成するなど、以前のようなPRを行って行きます。ただ重症化リスクが以前に比べ少ないとはいえ、新型コロナに感染しては大変なので、しっかりと感染防止対策を行い、事業を実施して参ります。皆様もぜひご参加ください。

2022年度第26回友の会総会イベント

2022年度友の会総会イベントは講演会を開催いたしました。講師をお願いしたのは、博物館のお隣り、温泉地学研究所の萬年一剛さんで、演題は「火山災害と防災—富士山を中心に—」です。昨年度富士山噴火のハザードマップが改訂され、足柄平野にも噴出した溶岩が押し寄せるという予想が公開されました。神奈川県西部の自治体や報道機関はこれを大きく取り上げました。そこで『最新科学が映し出す火山その成り立ちから火山災害の防災、富士山大噴火』を2020年に出版され、かつ富士山噴火ハザードマップの改訂にも携わった萬年さんに、忌憚のない見解を縦横に述べていただき、今後の私たちの指針となるお話をいただきました。

当日は会員外の方も参加され、このことへの関心の高さを示していました。萬年さんの語り口はユーモアに満ちわかりやすく、かつ具体的で富士山噴火の実相がよく理解できました。憂慮すべき噴火は溶岩噴火よりスコリアを大量に噴出する爆発的噴火、300年前の宝永噴火のような噴火で、被災状況は足柄平野はもとより首都圏一帯に及ぶことです。そして、今の私たちは備えとして何を考えておくべきか、さまざまな事例をあげ提起をされました。萬年さん、ありがとうございました。



情報クリップ

友の会会員数：327名（5月15日現在）

正会員：325名／賛助会員：2名

●博物館人事異動

2022年1月19日付

＜企画情報部 企画普及課＞

新規採用：下出 朋美（学芸部兼務）

2022年4月1日付

＜学芸部＞

異 動：苅部 治紀（前・企画普及課兼務）

鈴木 聡（前・情報資料課兼務）

新規採用：西村 双葉（動物担当）

＜管理課＞

転 入：田村 靖

新規採用：鈴木 理佳

清水 光久

転 出：原 良治

＜企画情報部＞

転 入：植村 良彦（企画情報部長）

転 出：飯田 泰道（前・企画情報部長）

＜企画普及課＞

異 動：西澤 文勝（学芸部兼務）

新規採用：石持 みずき

吉成 美香子（学習指導員）

＜情報資料課＞

異 動：石田 祐子（学芸部兼務）

●退職

2022年1月20日付

吉田 沙也（前・企画普及課）

2022年3月31日付

広谷 浩子（前・学芸部）

内田 功（前・管理課）

井川 博文（前・管理課）

泉 在道（前・学習指導員）

2022年4月30日付

真間 悟（前・企画普及課）

●2022年度 友の会担当職員のご紹介

佐藤 武宏、樽 創、苅部 治紀、本杉 弥生

活動報告（よろずスタジオ）

◆「動物の歯と食べもの」

2022年4月17日（日）／博物館講義室／39名

（大人23名、子ども16名）／協力：大島学芸員／
スタッフ：6人

3月に博物館の改装工事が終わり、4月から再開館されて初めてのよろずスタジオでした。コロナウイルスはデルタ株からオミクロン株と名を変えて、まだ感染が収まりませんので、感染対策は持続されており、今回の「よろずスタジオ」も、密集を避けて、4家族、30分毎の入れ替え制で行ないました。このプログラムも回を重ねて、随分洗練されてきました。始めに大島学芸員のスライド画面による説明が追加されましたので、部屋の真ん中に設えた歯の標本（頭部）群を見に行くときには、それぞれの動物の歯の特徴を掴んでいることになり、判断の大きな力になりました。

歯と食べ物の関係について実物を見ながら、実感して、クイズ用紙に回答シールを貼ることが出来たのではないかと思います。



様々な動物の歯



これかな～サイの頭部を前にして相談

今回展示された標本は、草食性のシカ、ウシ（ボンゴ）、サイ、肉食性のヤマネコ、雑食性のブタ、魚食性のイルカの下あごやマッコウクジラの歯でした。

親子で話し合う機会にもなり、家族で自然界に興味を持つ小さなきっかけになったのではと思います。又今回は若いスタッフが加わって、



歯と食べ物の関係を説明する子供達との自然な雰囲気作りも叶い、何よりと思いました。

ご協力くださった、大島学芸員に感謝いたします。

（友の会：赤堀千里）

活動報告（植物観察会）

◆「天照山の春植物」

2022年3月23日（水）／足柄下郡湯河原町／12名
／講師：田中徳久学芸員／担当：植物グループ

前日の低気圧通過の影響で箱根の山も丹沢の山々も真っ白に雪化粧、スタート地点の広河原こそ雪はないものの湿った地面と膚を刺すような寒気の中、不安と期待の混ざった気持ちで出発した。今日の天気は晴れているが地面の状況を考慮して登山道の途中までで、少人数なのでゆっくり観察すると説明があった。

まずは、期待通りイヌガシ（クスノキ科）の暗赤色の花が手の届く場所に見られて皆で観察、花は枝に密集していて1個の花序に3～9個の花が付き、4個の花被片、雄花は6本の雄しべを持つ。雄花にも雌しべがあるようだが、確認できなかった。新しい枝は緑色、シロダモに似て葉裏は灰白色だったが、クスノキ科で～ガシという名前の違和感は増すばかりである。常緑であることは同じでも葉は3脈が目立っていた。

もう一つの期待のフサザクラの花は終わりにかけていたが、花のついた落枝を発見、皆でループで丹念に調べることができた。この花の暗く赤く見えるものは雄しべのやくで、花弁もがく片ももたない。雌しべは雄しべの根元に薄黄色に広がっている。

この2種の個性的な早春の花は注意深く、かつよく知っている人と探さないときっと見落とししてしまうだろう。その花に会うことができてとても満足であった。

登山道の途中の河原で、本日の次のテーマ「ネコノメソウ」の仲間探しを楽しみ、ランチを取った。ムカゴネコノメ（ムカゴネコノメソウ、花後に走出枝が伸び、先端にむかごができるが今はまだ見えない）、ヨゴレネコノメ、ハナネコノメ、イワボタンを皆ではいつくばって観察した。なんといっても高さが10cm以下なのだ。先生からのお話、この河原は岩がゴロゴロしている攪乱地で頻繁に流されたり、シカのフンの多さから高い採食圧にさらされているにもかかわらず頑張っている植物たちの生活を知ることが興味深い。わたしも同感です。

ここから戻り、移動した距離は短かったが内容は濃い観察会を開催していただき、植物グループの方に感謝です。

（友の会：芥川 仁美）



フサザクラ：雄しべの根元に雌しべが



イワボタン：葯の黄色がめだつ

里山に早春の植物を訪ねる 小山田緑地観察会中止

4月5日に計画しておりました里山に早春の植物を訪ねる「小山田緑地」の観察会は、参加申し込み者が少なく中止といたしました。

神奈川県立生命の星・地球博物館
友の会植物グループ

◆「身近な植物観察入門」

2022年4月23日（土）／博物館周辺／9名（一般参加者4名、植物グループ5名）／担当、講師：植物グループ

今年で3年目に入った観察会は、身近な植物入門なので比較的ゆっくり観察が出来る。今回は4名の一般参加者があり、ほとんどの方がリピーターだった。

入生田駅から吾性沢方面への坂道の土手でスズメノエンドウ、オヤブジラミの花や果実のくっつき虫になる毛をルーペで確認。その先でコウゾリナの平べったい茎（帯化）、通常と違うのはどういう状況だったのかと想像。ツボクサの葉の下に隠れた小さな花に「これが花？」「ツボクサにも花があったんだ！」と。私もツボクサの花にはじめて出会った時を思った。そして吾性沢方面への林縁ではムラサキケマン、ジロボウエンゴサク、タニギキョウ、カンスゲと観察。ヒメコウゾは雌花、雄花が同株に咲いていた。路傍ではタチタネツケバナと濃い紫色のアメリカスミレサイシンが多数見られ、落下した大きな花序は皆で見回してオニグルミと分かった。サルナシ、アカショウマはまだ花はなく、ニガキの幼木の葉の苦さを試した方もいた。最後に下見でこの花を見せたいと思っていたオオバウマノスズクサにたどり着き、サキソフンの形で見頃の花を堪能できた。吾性沢まで行き帰路は来た道を入生田駅までもどり解散した。
（植物グループ：石橋美春）



ジロボウエンゴサク



オオバウマノスズクサ



ヒメコウゾの雄花、雌花



観察会風景

学芸員の雑記帳⑦

学芸員 渡辺 恭平

昆虫採集には晴れがよいとは限らない

昆虫採集は晴れた日が良いとイメージする人が多いでしょう。実際、晴れた日には多くの昆虫が活動しますし、タマムシなど晴れた日の方が圧倒的に採れるものも少なくはありません。しかしながら、曇りや雨の日は昆虫が採れないのでしょうか。実はそうではないのです。調査のため、遠方に複数の日程で出かけると、どうしても雨や曇りの日にあたってしまいます。そんな日も諦めずに野外に出ると、思わぬ発見があります。

私自身、研究対象としているヒメバチの野外調査を重ねるうち、ヒメバチをたくさん採集するには晴天よりも曇天が良いことに気が付きました。晴れた日でも、夕方薄暗くなると（薄暮時）、どこからともなく多くのヒメバチたちが現れます。ヒメバチは他の昆虫に寄生し、食べてしまう寄生蜂ですので、寄生する昆虫の生態を攻略する必要があります。おそらく、曇天は薄暮時と同様、彼らが寄生相手を探すのに適した条件なのでしょう。実際に、日中は土中などに隠れ、夕方や夜間に活動するイモムシも多く、アメバチの仲間など、完全に夜間に活動するヒメバチも存在します。



左：図1. 多くのヒメバチが得られた霧の牧草地。

右：図2. 霧で濡れたササにとまるクロフシヒラタヒメバチ。

最近、ハナバチも私の調査対象となったことで、ヒメバチが曇りの日を好むさらなる理由が見えてきました。ハナバチは晴れた日の、朝から昼過ぎ（13時すぎ）くらいまでが活動のピークで、多くの種では曇天時や午後の遅い時間はめっきり数が少なくなります。これは花の開花時間や巣を狙う天敵の回避のためと言われています。その視点からヒメバチを

見ると、ほとんどの種類はアブラムシの甘露などを成虫の餌とし、花の蜜を吸う種類は少ないことから、花の開花時間に左右されないことも、曇天時に多い点に影響していると考えられます。さらに、ハナバチを効率よく探すために導入した偏光サングラスを通して樹冠を見ると、曇天時に多数のヒメバチが空を舞っていることに気が付きました。それは特に霧が出た時に顕著で、どこからともなく湧くようにヒメバチが飛んできます。過去、曇りの日に何度も昆虫採集をしていたにもかかわらず、私にはヒメバチたちが見えていなかったのです。虫を探す人の目に留まらなかったわけですから、曇天に活動するのは、敵に襲われにくいからという理由もありそうです。



図3. 偏光サングラスをつけてヒメバチを探す。

最後に面白い体験を一つ、以前国際ハチ目会議が日本で開催され、大会後に石鎚山で採集合宿が開催されました。運悪く台風が迫っており、辛うじて山小屋に到着しましたが、強風と小雨交じりの曇天で、多くの参加者は山小屋で待機していました。そのような中、野外でしつこくハチを探していた私は偶然、悪天候で活動したヒメバチが強風で次々と広場に不時着する光景を見つけました。運よく同行していたドイツ人の学生と一緒に、日暮れまでひたすら不時着したヒメバチを拾い、300個体近いハチを採集し、山小屋に戻った私に、海外の研究者が驚いたことは言うまでもなく（クレイジーに見えたかもしれません）、実に愉快的体験でした。

<植物コラム>

花から果実ができるまで

学芸員 石田祐子

「実りの秋」という言葉があるように、植物の果実や種子というと秋のイメージがあるかもしれませんが、私は、花を出発点にし、そこから果実が実るまでの過程を観察して欲しいと、多くの植物が動き出す春にこれをテーマにした講座をやることが多いです。秋に、オオオナモミなどの「くつつきむし」や、翼を持つイロハモミジのような工夫を凝らした果実の話をしていると、この工夫された形は花の時のどこの部分が変わってきたのだろう…そこを面白く思っています。

例えば、セイヨウタンポポとオオオナモミ、アメリカセンダングサは同じキク科ですが、それぞれ果実を運んでもらうための工夫が異なります。

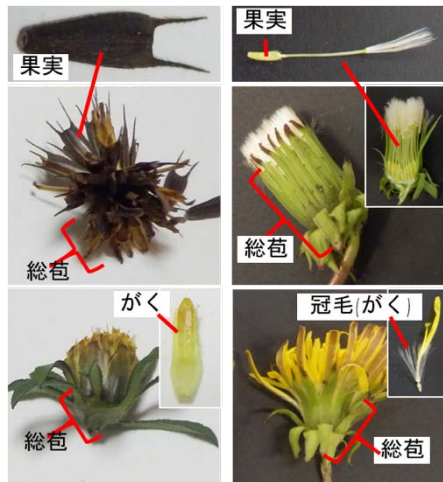


図1. アメリカセンダングサ（左）とセイヨウタンポポ（右）の花と果実

セイヨウタンポポは、みなさんご存じのように綿毛を持ち、風に乗って種を遠くへ運びますが、この綿毛の由来は何でしょうか。なんと「がく」に由来するのです。一方、アメリカセンダングサは、果実に角のような突起があり、そこにある逆刺で人や動物の体にくっつきますが、これもがくに由来しています。同じくキク科のオオオナモミはトゲで人や動物の体にくっつくことで種を遠くへ運んでもらいますが、このトゲは総苞に由来します。このように、花から果実までを追って観ていくと、植物のあの手この手の工夫が見えてきて面白いです。梅雨が明けたら、実りの秋までの間、ルーペ片手に身近な植物の花が、果実（種子）へと姿を変える様子を観察してみたいはいかがでしょうか。



図2. オオオナモミの花と果実

<学芸員紹介>

海に還った哺乳類を知る

学芸員 西村双葉

4月より哺乳類担当の学芸員として着任いたしました西村と申します。これまでは鯨類に関する調査・研究を行っており、特にヒゲクジラ類の頭骨や摂餌器官（餌を食べるのに使う器官）のかたちに着目してきました。

鯨類は、口の中に歯を持つハクジラ類と、“クジラヒゲ”と呼ばれる特殊な摂餌器官をもつヒゲクジラ類に分けられます。どちらのグループも、進化の過程で生活の場を陸上から水中へと移しました。このため、鯨類は、後ろ足が退化し、流線型の体をもつなど、陸上の哺乳類とは一見変わった特徴を示します。

からだの大きさやかたちは、鯨類の中でも種ごとに大きく異なります。種に特徴的なかたちは体の内部にも見られます。当館では、ヒゲクジラ類1種とハクジラ類4種の全身骨格標本を展示しています。じっくり観察すると、沢山の違いが見られます。皆様も是非、ヒゲクジラ類とハクジラ類の違いや種によるかたちの違いを探してみてください。

からだのかたちは、種を定義する指標になるとともに、彼らの生き方を知るための手がかりともなります。私は、骨格や器官の計測や比較を通して鯨類の種ごとの違いや成長の様子を明らかにするとともに、普段は観察することが難しいクジラたちの生活について少しでも理解を深められればと思っています。幼い頃より陸に棲む哺乳類も大好きで、興味を持っていますので、これからは鯨類に限らず、様々な哺乳類の魅力を皆様と発見し、共有していきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



当館で展示されているマッコウクジラ（ハクジラ類、写真右）とコククジラ（ヒゲクジラ類、写真左）の全身骨格。左端に写っているのはオキゴンドウ（ハクジラ類）の尾の骨格。

行事案内

◆ 植物観察会 『黒川に里山の花を訪ねて』

多摩丘陵の一角にある黒川（地名です）は、国木田独歩の「武蔵野」の雰囲気をおもわせる里山です。梅雨明けの一日、田園や雑木林の植物を楽しみながら歩きましょう。ハリヒメハギ（神奈川県ではここだけ）の花も見られます。

日 時：7月30日（土） 雨天中止

場 所：川崎市麻生区 黒川

集 合：小田急多摩線黒川駅 10:00

解 散：同駅 15:00 頃

講 師：田中徳久学芸員

対 象：大人15名（参加者多数の場合抽選）

参加費：600円（保険・資料等）

申込み：7月6日～16日の間に、件名を「7月30日観察会申込み」とし、本文に氏名、住所、電話、年齢、会員番号、連絡先メールアドレスを記入して、下記アドレス宛てにメールで申し込んでください。

shokubutsuG@gmail.com

電話申込み：メールアドレスのない方は7月12日～16日の19:00～21:00の間に、電話で申し込んでください。

申込・問合せ：近田（090-7902-8501）

当日の連絡：松井（090-5024-7411）

浅川（090-6538-6843）

*新型コロナウイルス感染状況によっては、募集人数の変更や、観察会を中止する場合があります。詳細はメール（または電話）でお知らせします。



ハリヒメハギ（ヒメハギ科）の花



キバナノマツバニンジン（アマ科）

★お詫び

友の会通信115号（2022年3月15日発行）に同封されたオレンジ色のチラシ『2022年度植物グループ観察会一覧と申し込み方法』に掲載されたメールアドレスに間違いがありました。

正：shokubutsuG@gmail.com

誤：syokubutsuG@gmail.com

申し込み方法の詳細は通信の各行事案内を参照してください。（友の会植物グループ）

◆ 地話懇話会

演 題：特別展動画プロジェクトの裏側

（調査秘話、動画制作など四方山話）

日 時：8月24日（水） 15:00～16:30

場 所：博物館 東・西講義室

対 象：友の会会員

備 考：詳細はチラシ・ブログにて



2021年6月地話懇話会情景

◆“よろずスタジオ”

対 象：子ども（当日の来館者）

申込み：不要／オープン

参加費：無料

場 所：博物館1階講義室（東側）

日 時：9月18日（日） 13：00～15：00

「巻貝の中をのぞいてみよう」

巻貝の中はどうなっているのかな？

巻貝のスライス標本を見ると分るよ～

観察した後は、クレヨンで写し絵にして持って帰ろう。

◆ 昆虫講座「カメムシを知ろう」

カメムシというと臭いがどうもと言う方も多いと思いますが、臭いのない種類も沢山います。またカメムシの中にはとても美しいものも多いのです。そんなカメムシのことを皆様とご一緒に勉強しましょう。

日 時：9月24日（土）10時～14時30分頃

場 所：博物館実習実験室

集 合：実習実験室

解 散：同所

講 師：伴光哲氏（千葉県立中央博物館学芸員）

募集人員：15名（多数抽選）

参加費：500円／人（保険料・資料代を含む）

締め切り：9月10日（土）必着

担 当：里山むしてくクラブ

連絡先：金子 0465-34-9331（18時以降）

＊詳細は返信はがきでお知らせいたします。



アカスジカメムシ

◆ 生物間共生講演会 第10回

「細菌と私たち：実は身近な細菌たち」

細菌と聞いて皆さんどのような生き物か思いつくでしょうか？細菌は細胞一つで一つの生き物として成立している単細胞生物です。大きさは非常に小さく1/1000から1/100ミリメートル程度と肉眼では見えない生き物です。

ですが細菌は目には見えないものの、私たちの体や周囲にたくさん存在するすぐ身近な生き物です。納豆菌や乳酸菌など私たちの食生活に役に立つ菌もいます。一方で、食中毒を起こす菌や、ペストやコレラ、炭疽など恐ろしい感染症を起こす菌もいます。

また、近年私たちの体の中に住んでいる共生細菌についても研究が進み、細菌は私たちにとって欠かせない存在であることがわかってきています。本講演では細菌とはどういう生き物であるか、またどのようなことをしているか紹介いたします。私たちの周りにいる細菌を少し詳しく見てみましょう。



図：寒天培地に生えた黄色ブドウ球菌

日 時：9月10日（土）10：30～14：30

状況が許せば講演会後、茶話を催します。

場 所：博物館1階講義室（東西両側）

講演者：小野久弥氏 北里大学獣医学部 准教授

申し込み：往復はがき又はメールで必要事項を記して友の会事務局へ。メールは題を「9月10日共生講演会申し込み」として下さい。

アドレス：c.akahori@gmail.com

締め切り：8月27日（土）必着

参加費：1,100円／人（会員以外1,500円）

対 象：オープン、小学高学年以上、

連絡先：080-1088-9269（菌事勉強会）：赤堀

◆ 植物観察会 『身近な植物観察入門』

博物館周辺を歩き身近な植物を観察します。
初心者中心です。会員以外の方も大歓迎です。

日 時：9月24日・10月22日・11月26日
各月の第4土曜日です。

(連続して出る必要はありません。)

集 合：博物館正面 前庭 10時

解 散：同所 12時頃

参加費：友の会会員・非会員共に無料

当日の保険は植物グループで掛けます

講 師：友の会植物グループ

対 象：オープン・どなたでも

小学3年生以下は保護者同伴でお願いします

持ち物：飲み物・雨具など

申し込み：担当者へ電話でお願いします

(下記の期間内の18時～21時)

- | |
|--|
| ・9/24 観察会： 近田 0463-82-0804
9/18 (日) ～ 9/23 (金) |
| ・10/22 観察会： 浜岡 0463-82-2349
10/16 (日) ～ 10/21 (金) |
| ・11/26 観察会： 小久保 090-4136-3025
11/20 (日) ～ 11/25 (金) |

問い合わせ：上記申し込み担当者へ (18時～21時)
(博物館には問い合わせないで下さい)

コロナ感染の状況により中止する場合があります。
また、申し込み後、雨天その他の事情で中止の場合は
担当者から電話連絡いたします。



カラスノゴマ (アオイ科)

◆ 昆虫観察会

「秋になった 虫たちはどうしている？」

10月。秋の虫たちは鳴き声を競っているときですね。他の虫たちはどうしているでしょう。越冬の準備を始めているのでしょうか。小田原の里山を歩いて虫たちの様子を観察しましょう。

日 時：10月4日 (火) 10時20分～14時頃

場 所：小田原市久野

集 合：神奈川県立小田原諏訪の原公園バス停

解 散：同所

講 師：渡辺恭平学芸員

募集人員：15名 (多数抽選)

参加費：500円/人 (保険料・資料代を含む)

締め切り：9月22日 (木) 必着

担 当：里山むしにくクラブ

連絡先：金子 0465-34-9331 (18時以降)

*詳細は返信はがきでお知らせいたします。



ホシヒメハウジャク

◆ 植物観察会 『秋草の衣笠山公園』

三浦半島のほぼ中央にある衣笠山公園は駅から徒歩10分、植物の豊かな丘陵です。ヤマハッカ、シラヤマギク、オカダイコン、ツルギキョウなど秋の植物を楽しみながら歩きましょう。

日 時：2022年10月6日 (木) 雨天中止

場 所：横須賀市 衣笠山公園

集 合：JR 横須賀線衣笠駅 9:30

解 散：同駅 15:00頃

講 師：植物グループ

対 象：大人10名 (参加者多数の場合抽選)

参加費：500円（保険・資料等）

申込み：9月1日～14日の間に、件名を「10月6日観察会申込み」とし、本文に氏名、住所、電話、年齢、会員番号、連絡先メールアドレスを記入して、下記アドレス宛てにメールで申し込んでください。

shokubutsuG@gmail.com

電話申込み：メールアドレスのない方は9月12日～14日の19:00～21:00の間に、電話で申し込んでください。

申込・問合せ：望月（090-2800-9452）

当日の連絡：望月（同上）

石橋（090-2159-4752）

＊新型コロナウイルス感染状況によっては、募集人数の変更や、観察会を中止する場合があります。詳細はメールでお知らせします。



オカダイコン



コバノカメヅル果実



ヤマハッカ

友の会主催行事の参加申し込みについて

◆行事案内に申込み方法が指定されていない場合
往復はがきに必要な事項を記入して、友の会事務局までお送りください。

■必要事項：行事名／開催日／参加者全員の氏名・年齢（学年）／会員番号／代表者の住所・電話番号／指定事項

◆行事案内に申込み方法が指定されている場合は指定された方法（メール・電話等）にてお申し込みください

注意！

■参加費は友の会会員1名分の金額で、内訳は資料代、傷害保険料です。それ以外のものは特記事項に記載があります。バスなど予約が必要な場合、参加者個々に材料を購入する場合などの講座参加確定後のキャンセルは、代わりの方をご紹介いただくか、参加費を負担していただく場合があります。

■オープンの行事は会員以外の方も参加できます（参加費が会員とは異なる場合があります）。

■小学生以下の参加は保護者同伴が原則です。

■チラシの発行されない行事もありますので、直接＜連絡先＞へお問い合わせください。

■持ち物など詳細は返信はがきに記載されます

ー広報部よりー

2018年度から通信の編集作業は外注から広報担当者が行っています。編集作業や新規企画提案など通信作成のお手伝いをいただけると非常に助かります。お手伝いいただける方は、下記メールアドレスにご連絡ください。よろしくお願いします！

次号は、2022年9月15日発行予定です。

発行：神奈川県立生命の星・地球博物館友の会
Vol.26、No.1、通巻116号 2022.6.15 発行

編集：友の会広報部

〒250-0031 神奈川県小田原市入生田4-9-9

TEL：0465-21-1515 FAX：0465-23-8846

E-mail：kpmtomo@ybb.ne.jp

Blog：<http://blog.livedoor.jp/kpmtomo>

Twitter：@kpmtomo